

親子で視える「主体的な学び」の促進

～学校・家庭・地域で子どもたちを支える教育～

はじめに

錦町は熊本県の南東部、人吉盆地のほぼ中央に位置し、清流、球磨川が町の中北部を東西に流れています。人口10,205人（R5.5.1）、町内には、小学校3校、中学校1校があり、児童623人、生徒320人が学んでいます。錦町教育委員会では、学校教育目標に「郷土に誇りを持ち、将来にわたって心豊かに、たくましく生き抜く力を身に付けた児童・生徒の育成」を掲げ、各学校の教育活動充実のための支援、教職員の資質向上、教育環境の整備に努めています。

特に、学力の充実においては、熊本県が進める「熊本の学び推進プラン」の子どもの学びを支える4つの基本方針の1つ「子どもたちを『学びの主人公』として育てる（学びを深める授業改善の推進）」を目指して、各学校で日々の授業改善に向けた取組が行われています。

錦町教育委員会では、毎年、小中学校教職員の合同研修会を実施しており、令和3年度は「熊本の学び」推進の講話及び町内全校が公開授業研究会を開催しました。各先生が「主体的な学び」について、自らの授業を振り

返る機会となっています。

一方で、主体的な学び手である児童・生徒やその学びを支える保護者に対しては、「主体的な学び」について理解したり、考えたりする機会は限られています。

日々の授業で「主体的な学び」を実現していく上では、教師だけでなく学びの主体者としての意識を高めていく必要があると考え、親子「学び方」教室に取り組むことにしました。

親子「学び方」教室について

コロナ禍が続く中で人数などの制限はありましたが、小学校5、6年の児童と保護者を対象に、令和3年度は国語・算数、令和4年度は英語について開催しました。



講師は、授業マイスターや指導主事として、「熊本の学び」をリードした実績のある町内の管理職にお願いしました。講話の主な内容は、以下のとおりです。

○興味・関心を持って学び続けるための「主体的な学び」について

- 予習・復習の仕方と望ましい授業への参加の仕方
- 力を伸ばす学習法（家庭学習のやり方）など

国語では、自ら進んで学ぶことができる力の一つとして「語彙力」を挙げ、様々な言葉の表現を題材に、自分の考えを発表するには知識と表現力が必要となることなどを解説していただきました。

算数では、主体的な学びとするために、授業中に大事にしてほしいことについて解説していただきました。例として、先生の話や友達の話をよく聞くことで、集中力、表現力、感性を養うことや授業の振り返りをし、次の学習や生活につなげることの大切さなどを挙げられました。

まとめとして、「自主学習ノートはページを埋めることより、学力を伸ばすための取組として意識してほしい」と伝えられました。

英語については、「小学校英語はアルファベットや英単語の読み書きを大切にしながら英語によるコミュニケーションを図る基礎となる力を育成することが大切で、好きになることが重要です。中学校英語は文章やシチュエーションなどから要点を読み取る力が重要となります」と話されました。また、実際にカードを使って、家でもできるような動詞や名詞の勉強法なども具体的に指導していただきました。

参加した児童と保護者からは、「子どもの学習の手伝いができるようになった」、「今と昔での教育の仕方が違う」、「家庭でできる勉強法を親子で実践したい」などの感想が聞かれ、「主体的な学び」について学校と家庭の連携を深めることができました。



おわりに

子どもたちを『学びの主人公』とした「熊本の学び」を推進していく上では、学校・教職員の意識改革はもちろん、地域住民にもその内容を理解し、協力あるいは参画してもらう必要があると考えています。

錦町教育委員会では、その取組の一つとして、「Nishiki WakuWaku English Fes」を開催し、小中の円滑な接続を目指した英語学習の様子を保護者や地域の方々へ公開しました。

このような様々な取組を継続しながら、子どもたちの学びの環境を向上させていくことが大切だと考えています。



教育長
每床 三喜男